

SSA : Smart Standard Activity
(基準適正化活動)
推進宣言

令和 8 年 3 月 策定

一般社団法人 日本自動車工業会
一般社団法人 日本自動車部品工業会

はじめに

背景

自動車産業は、電動化・自動運転・コネクテッド化、さらには環境対応など、100年に一度の大きな変革期にあります。グローバル競争の激化や深刻な人手不足などの生産を取り巻く環境変化により、製品やサービスの品質維持向上と競争力の確保がこれまで以上に難しくなっています。

一方、サプライチェーンが広く複雑な自動車産業では、発注者・受注者の立場が多層的に入り組む構造的な特性から、基準の曖昧さの蓄積や困りごとを相談する心理的安全性の不足等が、結果として過剰な検査や厳しすぎる品質判断につながるケースが生じてきました。長年にわたり多くの関係者が協力し合いながらモノづくりを進めてきた結果として、無意識のうちに形成された“仕組み上の難しさ”と言えます。

このような構造的背景の影響で、現場からの改善提案や、発注者と受注者が率直に本音で相談するといった流れが生まれにくくなる場合があり、その結果として、意図せずムリ・ムダ・ムラが発生し、コスト面・資源面に限らず、様々なロスにつながるケースもありました。

こうした背景を踏まえ、サプライチェーン全体の競争力強化を目的として「Smart Standard Activity : 以下 SSA（基準適正化活動）」の取り組みをしております。

SSA とは

既存の基準を前提に部分的な改善を施す従来型のアプローチとは異なり、曖昧な品質や過剰な要求事項などをエンドユーザー視点で根本から見直す取り組みです。必要な基準を適切に定義し直すことで、過剰な検査や不要な作業を削減し、競争力強化の原資創出を目指します。一方で、現基準がエンドユーザーの期待値に満たない場合は、基準の改善に真摯に取り組めます。

SSA の活動の対象は、例えば、外観、物流・荷姿、補給など、車両・部品・材料の領域を問わず、幅広い分野が想定できます。業界全体の風土改革を伴う取り組みであり、現場の困りごとを発注者と受注者が協力して解決し、持続可能な自動車産業の実現に貢献します。

「自動車業界に携わる 550 万人の笑顔のために」という共通ビジョンの下、受注者が安心して困りごとの相談や提案を行える風土を醸成するために、一般社団法人 日本自動車工業会（以下、自工会）・一般社団法人 日本自動車部品工業会（以下、部工会）は、取引先となる受注者との活動において、発注者の立場で SSA を積極的に推進し、裾野が広く深い自動車サプライチェーン全体に本活動を浸透させることを目指し、次のとおり取り組みます。

SSA 推進宣言

自工会および部工会は、SSA の趣旨を共有し、サプライチェーン全体で SSA を進めるため、会員会社に対して次の事項への取組みを働きかけていくことを宣言します。

① 基準の明確化

曖昧な基準を撲滅し、検査における判断のばらつきを無くすため、明確な規格や基準を持ち、それらの整備・運用を適宜実施し、取引先に対し遅滞なく提示します。

② 体制構築

SSA を推進する組織を構築するなど、取引先等からの相談や提案に迅速かつ適切に対応できる体制を明確化し、トップ自らが率先して活動を牽引することで、社内外における情報共有、コミュニケーションの円滑化に努め、取引先が安心して相談できる環境を整えます。

③ 能動的な働きかけ・傾聴姿勢

取引先から基準適正化に関する困りごとの相談や提案等が出るよう、取引先に対して、発注者自らが直接困りごとをヒアリングする場を設ける等、能動的に働きかけるとともに、提案があった場合には、真摯に耳を傾ける姿勢を持ちます。取引先と丁寧に対話を重ね、改善の糸口を共に探っていきます。

最後に

本活動は、基準の適正化を通じて、サプライチェーンに存在する構造的な課題を解決し、業界全体の競争力強化を図ることを目的としています。

活動を通じて、エンドユーザーであるお客様視点で基準を発注者、受注者双方で見直し、適正化することで工程のスリム化等を図り、改善の原資を生み出します。

そして、その原資をモノづくりの技術革新・進化につなげ、新たな価値創出やスピード向上を図ることで、日本の自動車産業がグローバル市場で持続的に競争力を発揮し続けられる産業基盤の確立を目指します。

以上